

都市再生整備計画 事後評価シート

沼田市中心市街地地区

平成28年6月

群馬県沼田市

沼田市中心市街地地区(群馬県沼田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標 暮らしやすくにぎわいのある居心地の良いまちづくり	休日歩行者数	単位: 人/日	648 H21	700 H21	370 H26
小目標1 中心市街地のにぎわい復活	イベント開催数	単位: 日/年	25 H20	25 H21	28 H26
小目標2 安心して快適に暮らせる居住環境の創出	住宅・店舗数	単位: 戸	30 H21	30 H21	34 H26

【既存建造物活用事業】



- 関連事業
イベント開催事業
沼田公園桜まつり

【区画整理(上之町1街区)】



- 関連事業
イベント開催事業
沼田市産業展示会
商店街活性化対策事業
大商業祭

再開発事業地区(完了)

【生方記念文庫移転事業】

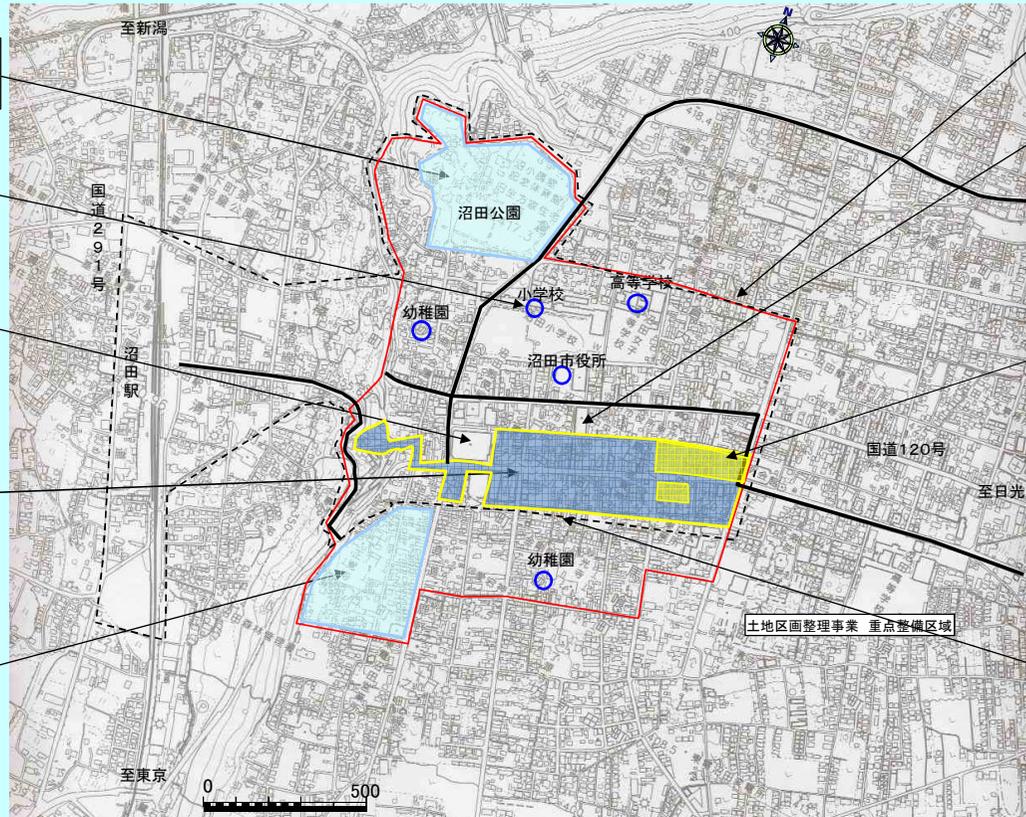


- 関連事業
イベント開催事業
沼田まつり
商店街活性化対策事業
七夕まつり
わらべフェスタ・柳波まつり
沼田えびす講

【商店街にぎわい創出事業】



- 関連事業
イベント開催事業
正覚寺観音まつり



歩いて暮らせる街づくり区域(73.0ha)

- 関連事業
市民文化活動育成事業
公民館まつり

- 基幹事業
既存建造物活用事業
(仮称)旧沼田貯蓄銀行地域交流センター
土地区画整理事業
- 提案事業
地域創造支援事業
生方記念文庫移転事業
上下水道事業
まちづくり活動推進事業
商店街にぎわい創出事業
- 関連事業
都市整備事業
歩行空間整備事業
文化啓発事業
生方記念文庫管理事業 商店街活性化対策事業費補助 他
[中心市街地におけるイベントの開催]
中心市街地活性化の会運営費補助
[勉強会開催]

- 関連事業
イベント開催事業
六齋市

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

まちの課題の変化
 ・旧来の商店街機能は、郊外型のショッピングモールによって、その意義が薄れており、中心市街地は、商業地域から商住混在地域への転換が求められている。
 ・市街地再開発により立地した大型商業ビルの空床化により、中心市街地への集客力のさらなる減少を引き起こした。
 ・中心市街地に居住する高齢者や生活弱者のためには、遅れている街路等の都市基盤整備と公共施設のバリアフリー化が必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 区画整理事業による都市基盤の整備により、都市のバリアフリー化と住宅移転による土地利用の高度化・集積化を促す。併せて民営による住宅等の建設を誘導することにより、街なか居住を進め、暮らしやすいまちづくりを継続して実施していく。
 平成26年度に中心市街地で空き家となった大型商業ビルを沼田市が取得し、今後は行政機能の移転を含め市民活動施設や商業施設などの活用を実施して行くことにより、中心市街地の活性化を図って行く。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	評価値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	休日歩行者数	人/日	毎年5月に中心市街地の休日歩行者数を調査、評価基準日の評価値(見込み)とする。	550	H16	648	H21	700	H26	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	370	事後評価		
指標2	イベント開催数	日/年	毎年度末に中心市街地のイベント数を調査、評価基準年の評価値(見込み)とする。			25	H20	25	H26	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	28	事後評価		
指標3	住宅・店舗数	戸	区画整理重点地区内の住宅数、店舗数を調査、評価基準日の評価値(見込み)とする。			30	H21	30	H26	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	34	事後評価		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	中心市街地にある大型店舗が閉鎖したことにより、大幅な減少となった。空き店舗となった大型商業ビルを沼田市が取得し、平成28年から放映されるNHK大河ドラマ「真田丸」に合わせた企画展を開催するとともに、平面駐車場の整備を行うことにより、来街者の増加が見込まれる。	
指標2	県主催の「花と緑のぐんまづくり」の会場としてイベントを行いにぎわいの創出に努めた。また、地域住民により新設された区画道路を使った「なかみちまつり」が行われた。	
指標3	区画整理による住宅・店舗の再建数について現状の維持を目標としたが、集合ビルの建設などにより店舗数の増加があった。また、にぎわいの核として集積した用地には農産物直売所の出店があった。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

土地区画整理事業の整備促進により、公共施設の整備改善と商業、居住等の充実が図られた。また、点在していた県指定文化財である「旧沼田貯蓄銀行」と「生方記念文庫」を一体的に整備する事により、中心市街地におけるにぎわいの核の創出が図られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中心市街地の歩行者数	予定どおり実施した	●【実施頻度】 毎年度1回 【実施時期】 毎年5月 【実施結果】 歩行者数の増減を確認することができた。中心市街地にある大型店舗の閉鎖があり、大幅な減少となった。	今後も歩行者数調査を実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
人口増減率	予定どおり実施した	●【実施頻度】 毎年度1回 【実施時期】 毎年9月末現在 【実施結果】 人口の増減を確認することができた。都市基盤の整備は進んでいるが、人口増加に効果が現れるには多少の時間が要する。	毎年度、統計資料等により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
プロポーザル方式による生方記念文庫建築設計	予定どおり実施した	●【実施頻度】平成23年度 【実施時期】平成23年6月～9月 【実施結果】建築設計の審査を公開とすることで、地域住民の事業への理解と参加意識の高揚が図られた。	地域を題材とした企画展を開催していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
県指定文化財の現場見学会	予定どおり実施した	●【実施頻度】H25より随時 【実施時期】平成25年～27年度 【実施結果】県指定文化財である旧沼田貯蓄銀行の移築前の状況や再築段階での見学会を行うことにより事業への理解を深め、円滑に事業が進んだ。	地域交流センターとして活用を図っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
中心市街地活性化の会による市街地活性化への取組	予定どおり実施した	●【実施頻度】毎月1回 【実施時期】平成22年～26年度 【実施結果】まちづくりに対する意見交換	沼田市中心市街地活性化の会	継続運営していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金担当者会議	・社会教育課 ・街なか対策課	H28.1	街なか対策課(まちづくり交付金担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3					
指標名		イベント開催数		住宅・店舗数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	既存建造物活用事業	○	県主催の「花と緑のぐんまづくり」の会場としてイベントを行いにぎわいの創出に努めた。また、地域住民により新設された区画道路を使った「なかみちまつり」が行われた。	-	区画整理事業による店舗の建て替えが少しずつ進み、集合ビルの建設などにより店舗数の増加があった。また、にぎわいの核として集積した用地には農産物直売所の出店があった。	-		-	
	沼田市中心市街地土地区画整理事業	-		◎		-			
提案事業	下水道事業	-		-		-		-	
	生方記念文庫移転事業	-		○		-		-	
	商店街にぎわい創出事業	◎		-		-		-	
関連事業	沼田市中心市街地土地区画整理事業	-		-		-		-	

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	商店街との意見交換を行いながら、継続的に推進していく。	区画整理事業とまちづくり事業を両輪にして段階的に推進していく。		
-------	-----------------------------	---------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指標名		休日歩行者数											
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	既存建造物活用事業	×	中心市街地にある大型店舗が閉鎖したことにより、大幅な減少となった。また、にぎわいの核として文化的施設の集約を図ったが現在、未完成であり効果の発現が見られない。	Ⅲ									
	沼田市中心市街地土地区画整理事業	△											
提案事業	下水道事業	—											
	生方記念文庫移転事業	△											
	商店街にぎわい創出事業	△											
関連事業	沼田市中心市街地土地区画整理事業	△											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	空き店舗となった大型商業ビルを沼田市が取得し、平成28年から放映されるNHK大河ドラマ「真田丸」に合わせた企画展を開催するとともに、平面駐車場の整備を行うことにより、来街者の増加が見込まれる。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育課 ・街なか対策課 	H28.1	街なか対策課(まちづくり交付金担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
細長く使いにくい土地形状が 支障となり土地の利活用が進 んでいない。	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理事業の進捗により僅かではあるが、空き地の 解消と店舗の新規開店が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅れている都市基盤整備の事業進捗が望まれている。 	
住民交流、外来者交流の拠点が 不足し、中心市街地に居住する 高齢者や生活弱者にとって生活 しにくい環境となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいの核施設として、文化施設の集約や農産物直 売所の誘致ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレや駐車場等の周辺整備が望まれている。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	中心市街地のにぎわいの復活	区画整理事業を中心とした都市基盤の整備と市街地活性化対策のソフト事業をまちづくりの両輪として事業を継続的に進めていく。	・土地区画整理事業 ・商店街活性化対策事業

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	都市基盤整備の整備促進	区画整理事業等の基盤整備事業を継続して進め、都市のバリアフリー化と建物移転による商店街の再構築、民間住宅等の建設促進を誘導する。	・土地区画整理事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	休日歩行者数	人/日	648	H21	700	H26	確定 ●	370	×	あり ●	→	平成28年5月	平成28年5月に調査員による交通量(歩行者数)調査を行い、評価基準日における確定値を求める。	
指標2	イベント開催数	日/年	25	H20	25	H26	確定 ●	28	○	あり	→			
指標3	住宅・店舗数	%	30	H21	30	H26	確定 ●	34	○	あり	→			
指標4				H		H	確定			あり	→			
指標5				H		H	確定			あり	→			
指標5				H		H	見込み			なし	→			
その他の数値指標1				H			確定				→			
その他の数値指標1				H			見込み				→			
その他の数値指標2				H			確定				→			
その他の数値指標2				H			見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定				→			
その他の数値指標3				H			見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・モニタリングを実施したことにより、事業の効果を確認することができた。	・毎年データが算出できる指標を選定するとモニタリングが容易となるため、指標を設定する際には計測のことも考慮して検討することが望ましい。
	うまく いかなかった点	・地区内の大型商業ビルが閉鎖するなど外的要因の影響があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点	・休日歩行者数を指標としていたが、事業が継続中であり、思うように数値として現れなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・情報を公開し参加を促すことで、住民の事業に対する意識が高められた。	
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標は、沼田市統計資料や交通量調査により毎年度、数値が整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができた。	
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

都市再生区画整理事業による都市基盤の整備により都市のバリアフリー化と住宅移転による土地利用の高度化・集積化を促す。併せて民営による住宅等の建設を誘導することにより、街なか居住を進め、暮らしやすいまちづくりを実施する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	沼田市ホームページに掲載	平成28年5月11日 ～ 平成28年5月25日	平成28年5月11日 ～ 平成28年5月25日	郵送	街なか対策課 (まちづくり交付金 担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—	持参	
説明会・ワークショップ	—	—	—	ファクシミリ	
その他	—	—	—	電子メール	

住民の意見 (原文のとおり)	<p>●5月11日 市内在住 男性(55歳/会社員) まちづくりの目標を決めて、それに向かって事業を進める方法は市民にも分かりやすく、とても良いことだと思います。 具体的には、街なかの建物が新しくなっていて、活気が戻りつつあるように感じます。 沼田市の顔であるメイン通りの様子が変われば、沼田市全体の魅力が上がると思います。 また、事後評価の調書は、細かすぎてよくわからない部分があります。</p> <p>●5月13日 市内在住 女性(20代) まちなかでは、道路工事が進んで、明るくなってきたと思います。 歩道が広がれば、冬場の積雪も多少しのぎやすくなりますし、雪かきも楽になると思います。 市がやった事業について、どんな成果が出たかを市の方が確かめるということは、市民の私たちにもとてもいいことだと感じます。 まちが明るくなるような事業をこれからも進めてください。</p> <p>●5月17日 市内在住 男性(21歳/大学生) 中央通りは広くなった部分と今までの所ではずいぶん印象が違います。 このような感じはなるべく早く解決して、まち全体の雰囲気を良くしてほしいと思います。 それについて、この都市再生整備計画はいろいろな工事をまとめて進めているようなのでとてもいいことだと思いました。 まちがきれいになって、楽しいとおもうお店が増えれば、中央通りを歩く人も増えると思います。 まだ前と変わらないところは、このようなやり方でまちづくりを進めていってほしいと思いました。</p>
-----------------------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	—	—	—	—	—
その他の委員	—				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価 手続き等 にかかる 審議	方法書	—
	成果の評価	—
	実施過程の評価	—
	効果発現要因の整理	—
	事後評価原案の公表の妥当性	—
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	—
今後の まちづくり について 審議	今後のまちづくり方策の作成	—
	フォローアップ	—
	その他	—
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	—
その他	—	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
・高橋 進(共栄大学 教育学部教授)	平成28年6月1日	街なか対策課(まちづくり交付金担当課)
・松井 淳(前橋工科大学 工学部教授)	平成28年6月2日	
・齊田典之(まちづくりNPO法人代表)	平成28年6月3日	

有識者の意見	<p>【高橋教授の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今後のまちづくり方策」については、住民がイメージしやすい目標を掲げ、主体的な参加を呼びかけることが重要であり、その点の記述が必要である。 ・まちづくりに資するとしている「ソフト事業」について、内容の説明が不十分である。 ・歩行者数のフォローアップは、良い評価が得られないと想定され、今後のまちづくり目標では、外的要因に左右される指標の設定は避けるべきである。 <p style="text-align: right;">【松井教授】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理事業自体は妥当とするものの、漫然とした継続ではなく、最終事業年度を見越した「ロードマップ」を作成する等、計画的で合理的なまちづくり方策の検討と記述が望まれる。 ・本計画で掲げた「まちづくり目標」と「数値目標」については、その意味や定義が曖昧な印象を拭えず、今後のまちづくりにおいては、明確で客観的な評価が可能となる目標の設定が望まれる。 <p style="text-align: right;">【齋田技術士】</p> <p>事業の換地手法を活用し、旧態依然とした土地利用の利便性向上を進めることを前提に、住民との協力を根差したまちづくり方策について、具体的かつ実効性ある形で記述が不足していると思われる。</p>
--------	--